献呈の辞

本田泰治教授は、本年三月をもって専修大学を定年によりご退職されることになりました。専修大学法学会は、本田先生の専修大学ご在職中の研究と教育に関するご尽力をたたえると共にこれに感謝の意を表し、「専修法学論集第99号」をご退職記念号として編集し、献呈いたします。

本田先生は、昭和一一年に鹿児島県にお生まれになり、幼少時に太平洋戦争を経験され、戦後の激動する時代に中学、高校の課程を終えられ、ようやく日本が経済的には上昇期に入らんとする昭和三〇年初期に大学入学そしていわゆる「六〇年安保」闘争の最中昭和三五年四月に専修大学の教員となられました。周知の通り日本社会は、その後も、激しい変化を遂げてきたのであり、そのような中にあって、一貫して専修大学の教員として真摯に人生を生き抜いてこられた体験そのものが貴重なものであり、まずもってそのことに対し賞賛の念を禁じえません。

本田先生は、東京教育大学体育学部体育学科（体育管理学専攻）に学ばれ、体育実技一般に長じていることは言うまでもないことですが、特に専門とする種目は野球であり、学部学生時代は、大学のエースピッチャーとしてならしたと伺っております。先生は、昭和三五年に専修大学体育講師（助手・専任）として就任以来、専任講師、助教授経て昭和五八年に教授に就任されており、

その専修大学での勤務は47年の長きに及びます。この間、先生は、様ざまなスポーツの指導を通じて多くは新しく入学してきた一、二年生の人格形成に当たってきたわけであり、文字通り、体を張って、青春期の専修大学の学生と交流を続けられてきたのであります。このような先生との交流は先生の指導を受けた個々の学生の専修大学での体験としてその人生において重要な役割を果たしたであろうことは容易に想像できるところです。また、先生はご研究の面では、日本体育学会の体育管理部会や測定評価部会において、学生指導の現場の立場から、「学生の体育への参加意識について」、「体育施設や指導について」などについて研究報告を行っております。更に先生は、自己開発を求めて、東京女子医科大学の衛生学教室に学び、昭和五七年四月には、「児童生徒の体格、体力・運動能力の縦断的観察」（東京女子医科大学雑誌第五二巻第一号・昭和五七年）を中心にした研究成果が認められ、医学博士の学位を授与されております。そして、これらの研究に基づき、長年にわたり、教壇においては「健康科学論」を講じ、文字どおり、人の生涯にわたる健康と運動との関係を説いてこられたのであります。

本田先生は、学内におきましてはさまざまな役職に当たってこられたのですが、特に、長期にわたり学生部次長、学生部長として学生の生活面につき心をくだいてこられたことについても、敬意を表したいと思います。このように先生は、学生の身体、精神の健康のいわば学生生活の基礎を支える面での指導を行っていただいたものと考える次第です。

また、先生は、法学部に長年にわたり所属し、いわゆる古参の教授のお一人として、近時には教授会の場などでその運営について、適切な助言を頂いたことも再三であったこともにも感謝申

し上げたいと存じます。

最後に私事ではありますが、私が昭和三九年に専修大学法学部に入学した際、本田先生は私が属したクラスの担任であり、大学で最初にご指導を受けた先生の一人であって、その後は同じ法学部の同僚として過ごすことになりそこでもまたご指導を受けることなった御縁にも感謝し、個人としても名残の尽きない惜別の情を表し、献呈の辞と致します。

二〇〇七年三月吉日

専修大学法学部長
木　幡　文　徳